



TITLE:

紀伊半島に迷入・漂着する鯨類の 特徴: 紀伊半島の東海岸と西海岸を 比較して

AUTHOR(S):

岸田, 拓士; 久保田, 信

CITATION:

岸田, 拓士 ...[et al]. 紀伊半島に迷入・漂着する鯨類の特徴: 紀伊半島の東海岸と西海岸を比較して. 南紀生物 2005, 47(1): 67-68

ISSUE DATE:

2005-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188305>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

紀伊半島に迷入・漂着する鯨類の特徴 —紀伊半島の東海岸と西海岸を比較して—

岸田 拓士*・久保田 信*

Takushi KISHIDA and Shin KUBOTA: Comparative analysis of strayed or stranded records
of cetaceans on both sides of the Kii Peninsula

2002～2004年の間に、和歌山県白浜町ではシャチ *Orcinus orca* (LINNAEUS), ハンドウイルカ *Tursiops truncatus* (MONTAGU), コビレゴンドウ *Globicephala macrorhynchus* (GRAY), オガワコマッコウ *Kogia sima* (OWEN) の計4例の鯨類の漂着を記録した(岸田・久保田, 2002; 岸田ほか, 2003; 紀伊民報, 2004; 岸田ほか, 2004)。鯨類は一般にその体サイズが非常に大型に属する哺乳類であり、また人の関心も引きやすい動物であるため、臨海実験所を擁する白浜町にてその漂着を見逃すことは考え難い。3年間でわずか4例の漂着しか記録されなかった点から、白浜町近辺での鯨類の漂着事例は少ないと言える。

しかし、わずか4例の記録ではあるが、その漂着種は2科4属4種にわたっており、オガワコマッコウのような、漂着事例が非常に稀有な種も記録されている。また、白浜町では過去に、主に三陸沖などの寒海に生息するイシイルカ *Phocoenoides dalli* (TRUE) の漂着なども記録されており(田名瀬・池田, 1986)、事例数に対して、非常にその漂着鯨類の種多様性は高いことがうかがえる。以下、国立科学博物館の海棲哺乳類ストランディングデータベース(国立科学博物館, 2005)などのデータをもとに、紀伊半島における迷入・漂着鯨類の特徴を、紀伊半島の東海岸と西海岸におけるデータを対比することにより考察した。

和歌山県和歌山市から同県串本町までを「紀伊半島西海岸」、和歌山県古座町から三重県鳥羽市までを「紀伊半島東海岸」とした。海岸線の長さは、やや東海岸の方が長い大きな差はない。1980年～1999年の20年間にそれぞれの海岸に迷入・漂着した鯨類の記録を集計したものが図1である。なお、この20年間をデータに用いた理由は、1980年以前のデータは明らかに珍しい種の記録に偏っており定量比較が困難であること、及び2000年以降のデータはまだ纏まった形で発表されていないことによる。

東海岸・西海岸に迷入・漂着した鯨類の記録数はそれぞれ22例および74例であり、非常に大きな差が見られた。しかし、東海岸では6科15属17種が、西海岸では5科12属13種が記録されており、その多様性には大差がないと言える。なお、東・西海岸を合わせると7科19属22種となる。それ以外の期間に記録がある3種、シロナガスクジラ *Balaenoptera musculus* (LINNAEUS) (1959年に和歌山県白浜町に迷入: 黒潮貝類同好会事務局, 1998)、ネズミイルカ *Phocoena phocoena* (LINNAEUS) (1973年に和歌山県太地町に漂着: 国立科学博物館, 2005)、シャチ *Orcinus orca* (LINNAEUS) (2002年に和歌山県白浜町に漂着: 岸田・久保田, 2002)を加えると7科21属25種となり、日本近海に生息することが確認されている鯨類7科26属37種(粕谷, 1996)のうちの68%の種が紀伊半島に漂着、もしくは迷入した記録があることになる。

東海岸・西海岸ともに図1より、スナメリ *Neophocaena phocaenoides* (CUVIER)、ミンククジラ *Balaenoptera acutorostrata* (LACEPEDE), ハナゴンドウ *Grampus griseus* (CUVIER) の3種の漂着報告数が多いが、これら3種は東海岸で特に報告数が多く、東海岸と西海岸の事例数の差はこれら3種の報告数の差(東海岸では50例、西海岸では13例)によるところが大きい。西海岸においては、この3種の報告数が特に突出しているわけではなく、多種類の鯨類がまんべんなく漂着している。スナメリが東海岸に多く漂着するのは、伊勢湾・三河湾に確認されているスナメリの個体群のためであろう(白木原, 1996)。ミンククジラ・ハナゴンドウが東海岸に多く漂着するのは、東海岸沖合いの熊野灘に彼等が遊動域をもつことを示唆しているのかも知れない。そして、西海岸において特に突出して漂着事例数の多い鯨種が存在しないことは、西海岸沖合いの枯木灘に固定の遊動域を持つような鯨類の群れが存在しないことを示唆している。

* 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所(〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459)
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Nishimuro, Wakayama
649-2211, Japan.

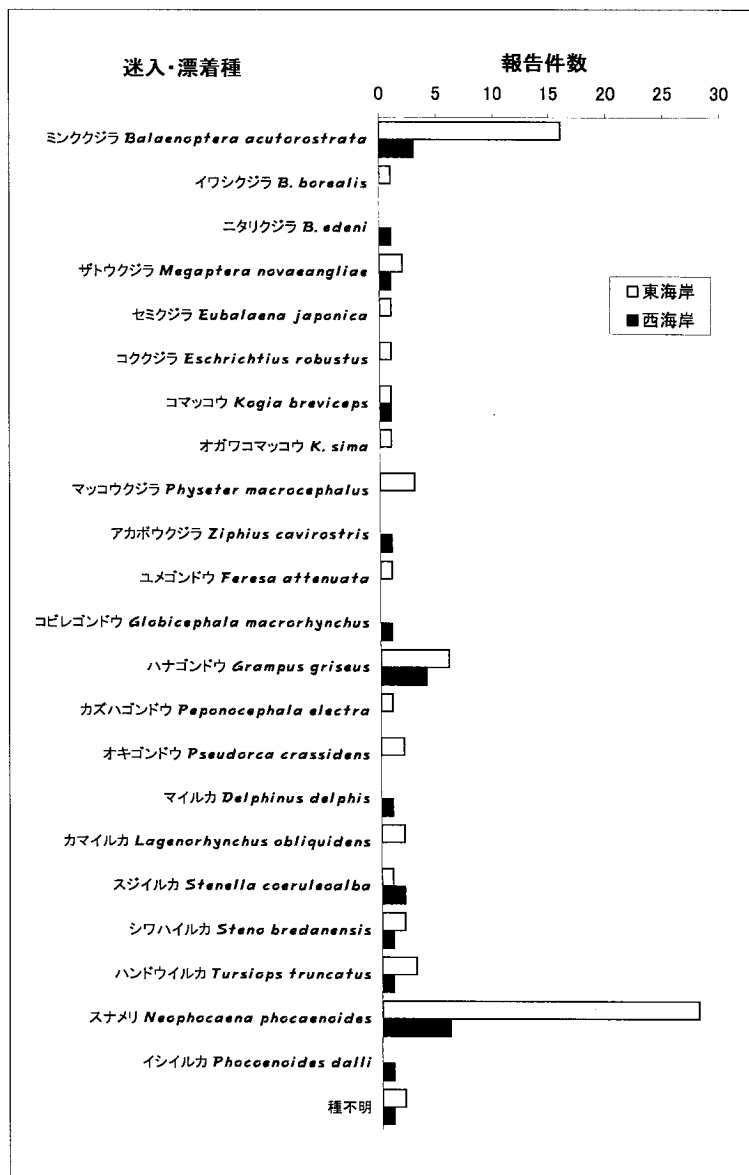


図1 1980-1999年の間に紀伊半島の東/西海岸に迷入・漂着した鯨類
Fig. 1. Strayed or stranded records of whales and dolphins on the east and west coast of the Kii Peninsula in 1980-1999.

のではないだろうか。紀伊半島は古くから捕鯨で栄えた集落の存在で有名であるが、捕鯨が盛んであった地域のほとんどが紀伊半島の東海岸に位置していること（今原ほか, 1997）も、この示唆と合致している。

引用文献

- 今原幸光・入江正己・小阪 晃.
1997: 紀伊半島周辺海域における大型鯨類の記録. 和歌山県立自然博物館館報, 15, 27-45.
- 粕谷俊雄. 1996: クジラ目総論. in 日高敏隆 (監), 日本動物大百科, 2, 20-25. 平凡社, 東京.
- 紀伊民報. 2004: ゴンドウクジラ漂着. 紀伊民報, 18384号.
- 岸田拓士・久保田 信. 2002: 和歌山県白浜町沿岸に漂着したハクジラ類の歯. 南紀生物, 44, 155-156.
- ・森阪匡通・久保田 信・天野雅男. 2003: 和歌山県白浜町番所崎の南浜にて発見されたハンドウイルカ *Tursiops truncatus*. 漂着物学会誌, 1, 25-27.
- ・久保田 信・小林亜玲・田名瀬英朋. 2004: 和歌山県白浜町番所崎先端の浜に漂着したコマッコウ科鯨類について. 漂着物学会誌, 2, 33-34.
- 国立科学博物館. 2005: 海棲哺乳類ストランディングデータベース. 石川 創 (編), 国立科学博物館ウェブサイト, <http://svrshl.kahaku.go.jp/indexJ.html/> (access date: 05.2.2).
- 黒潮貝類同好会事務局. 1998: 本覚寺村貝, 黒潮貝類同好会編, 25, 41.
- 白木原美紀. 1996: ネズミイルカとスナメリ. in 日高敏隆 (監), 日本動物大百科, 2, 84-85. 平凡社, 東京.
- 田名瀬英朋・池田久和. 1986: 白浜町に打ち揚げられたイシイルカ. 南紀生物, 28, 16.